

## 第1回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会 議事録（概要）

### 1 日時

令和3年（2021年）10月8日（金）14時00分～16時00分

### 2 場所

水前寺共済会館グレース ア 芙蓉

### 3 出席者

八幡英幸委員、出川聖尚子委員、小多崇委員、足立國功委員、吉田孝平委員、志波典明委員、馬場敬子委員、大園隆明委員、松岡隆恭委員、牛田卓也委員、池田廣委員、松島雄一郎委員、夏木良博委員（計13人）

### 4 概要

#### （1）開会

#### （2）県立学校教育局長挨拶

#### （3）出席者紹介

事務局が出席者紹介をした。併せて、時間の都合上、委嘱状交付に代えて、委嘱状を机上配付した旨説明した。

#### （4）日程説明

事務局が設置要項第6条第2項の規定に基づき、本会が成立することを報告した。

事務局が本会全体の予定について、複数回開催予定であること及び年度を越えて開催する場合もあることを説明した。

#### （5）設置要項及び運営要領（案）説明

事務局が設置要項及び運営要領（案）の説明をし、同要項及び要領に基づいて本会を進めることについて委員の了承を得た。

#### （6）会長・副会長の選任

設置要項第5条第1項に則り、会長及び副会長を選任した。委員からの意見がなかったため、事務局から八幡委員を会長に、出川委員を副会長にすることを提案し、異議なしで了承された。

#### （7）議事

○会議の公開・非公開について

○現行県立高等学校入学者選抜制度の概要について

○県立高等学校入学者選抜制度の現状と課題について

○協議依頼事項について

#### <配布資料>

- ・第1回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会 会議次第
- ・令和4年度（2022年度）熊本県立高等学校入学者選抜要項
- ・令和4年度（2022年度）熊本県立高等学校入学者選抜案内
- ・県立高等学校のあり方と今後の方向性について（提言及び概要）

**【八幡会長】**

設置要項第9条により、事務局が提示した案を正式な運営要領とすることを確認した。

**【事務局】**

運営要領第5の規定に則り、冒頭で公開・非公開を協議すること及び審議会等の会議の公開に関する指針第3の規定を説明した。

**【八幡会長】**

本日の会議を公開とすることを提案し、異議なしで了承された。

**【事務局】**

現行県立高等学校入学者選抜制度の概要について、「熊本県高等学校入学者選抜案内」の8ページ及び9ページを説明した。

**【八幡会長】**

前期（特色）選抜で、熊本市内と市外で募集定員の割合の範囲が異なっている理由は何か。

**【事務局】**

熊本市内に受検の集中が一層進むことへの配慮のため。

**【小多委員】**

前期（特色）選抜の合格者のうち県内と県外の割合、県外からの受検者数が分かれば知りたい。

**【事務局】**

次回回答する。

**【足立委員】**

中高一貫校の連携型と併設型の違いは何か。

**【事務局】**

併設型は、玉名、八代、宇土高校に中学校を設置しており、中学校入学段階で入学者を決定し、併設している高校に進学希望する場合は入学試験なしで進学できる。

連携型は、小国高校と小国中学校及び南小国中学校の2中学校が該当する。学力検査を課さずに入学者を決定するという規定があり、中学校からの進学は面接等で決定している。

**【出川副会長】**

後期（一般）選抜の特例出願とは何か。

**【事務局】**

転勤等やむを得ない事情によって、出願期間に出願できなかった場合に関する入試の特例のこと。

**【事務局】**

資料1により本県高等学校入学者選抜制度の現状と課題及び協議依頼事項、資料2により出願者数等の推移、資料3により都道府県別の令和3年度入学者選抜の実施状況、資料4及び資料5により令和3年度入学者選抜の出願状況を説明した。

**【大園委員】**

前期（特色）選抜合格者と後期（一般）選抜合格者の入学後の活躍等に違いはあるか。

**【事務局】**

具体的なデータはないが、前期（特色）選抜の合格者は特色を生かし、意欲的に頑張っている者がいる一方で、学習面の課題がある生徒もいるという話を聞いている。

**【八幡委員】**

前期（特色）選抜合格者と後期（一般）選抜合格者の入学後の活躍等に違いについて、定量的な調査はできないのか。大学でもよく話題になるが、調査はなかなか難しいものがあると認識している。

**【事務局】**

検討の時間をいただきたい。

**【馬場委員】**

熊本県全体を見ると、中学校から高校への進学は大体いつも100%に近いということがわかった。

**【小多委員】**

私立中学・高校の生徒確保の状況や動向を交えて考えていくことはできないか。また、他県の入試制度等の状況が知りたい。

**【事務局】**

次回回答する。

**【大園委員】**

前期（特色）選抜があることで入試事務が煩雑化している。入試日程が早まると、進路決定が早くなるので、学習意欲が低下するという意見もある。前期（特色）選抜が始まったときは受検機会の拡大ということであったが、合格する者は合格し続け、不合格の者は不合格が続く。

今年度の熊本市立中学校の卒業式は3月4日であり、卒業後から高校入学までの1ヶ月間が心配である。入試日程が早くなったことの弊害も検討すべきである。前期（特色）選抜を見直し、後期（一般）選抜の一回勝負が良いのではないか。

**【池田委員】**

今年の入試日程では、私立高校の専願、奨学生の入試結果が分からない状態で前期（特色）選抜を受検することになる。入試が早まることで入試の出題範囲や学習範囲の問題もある。

入試を1回のみとすることを検討している私学もあるが、中学校の先生方からは私学には一般の入試を2回実施してほしいとの要望がある。私学ではWeb出願が始まっており、事務手続き上お金を扱うということがなくなってきていることはよいが、手探りで進めている状況。

**【牛田委員】**

中学校や中学校の先生方の視点、生徒や保護者の視点、高校の視点など様々な視点で考えるべきである。入試問題は中学校へのメッセージでもあり、中学校の授業や学習指導にも大きく影響する。入試には弁別性も必要である。高校も専門高校から普通科だけの高校

まで色々ある。スクール・ミッションやスクール・ポリシーを踏まえた入試を行うのが本来の姿ではないか。

教師の働き方改革の視点も大切である。前期（特色）選抜は負担が大きく、後期（一般）選抜一本で良いのではないかという意見がある。本県では後期（一般）選抜を2日間かけて行っているが、全国の中には入試を1日で実施している県も半数くらいある。今回、選抜手数料をコンビニエンスストア納付にされたことは負担軽減になっている。

中学校の校長先生からは、中学生や保護者が進路を早く決めてしまいたいということで、後期（一般）選抜の時期まで引っ張ることが難しいという声もある。高校入試の課題は多面的な考察が必要である。他県の例を可能な範囲で出していきたい。

#### 【吉田委員】

皆さんの話を聞き、現場の大変さがよく分かった。県立高校の受検者の減少が続き、私学はあまり変わらないという印象を受けている。R4年度入試からの前期（特色）選抜70%への拡大がどういった成果になるかに注目したい。

県立と私立をバランス良く、県立高校への受検者を減らさないようにしていかなければならない。スクール・ミッションや、スクール・ポリシーも重要であり、いかに県立高校を受検していただくように持っていくのかが一番の課題。本県と同じような状況にある他県の例があれば知りたい。

#### 【松岡委員】

入試の1週間前倒しは、最初は混乱したが、県教委の丁寧な説明のおかげで整理できた。追検査、追検査対象の二次募集の設定についてもありがたく思っている。日程が早まると、入試までに教育課程が終わるのかという懸念がある。職員に意見を尋ねたが、入試は一本で良いのではないかとの意見があった。進路が早く決まった者とそうでない者で授業においても違う対応が必要になってくるという課題もある。

#### 【小多委員】

「あり方検討会」を振り返ると、高校のあり方は「地域の中で生徒をどう育てるか」の問題でもあったように感じる。

中学校における3月の指導のご苦労も理解できた。高校で特色を生かした人材を育成したいというのも分かる。どこに議論の重点を置くかで、結論が大きく異なるような気がしている。高校入試の課題はデリケートであり、様々な視点を軽んじてはいけない問題である。

#### 【八幡会長】

本会の構成は、中学校、高校あるいはPTAなど様々な関係者の集まりであり、率直に話し合いながらバランスを取って着地点をみつける必要がある。中学校の視点、高校の視点はこれまで出てきたと思うが、その他地域社会からの視点もあればありがたい。

#### 【池田委員】

県内の私学は熊本市内14校、他7校あるが、定員を満たしているのは市内の5校くらいである。特に、郡部の私学は生徒確保に苦労しており、県立高校の前期（特色）選抜の

募集定員70%への拡大で、専門学科を有する郡部の高校は、影響が大きく、今回反発している。

私学では専願入試があるが、受検者は多くない。学力奨学生や特待生入試が増えている。近年、私学では合格したら入学するという形で入学手続きを行う保護者が増えた。

天草の中でも、「外へ出すなら、天草市内も熊本市内もどこへ出しても一緒。部活動でも、競争する環境で頑張りたい」という思いを持っておられるところもある。熊本市内に集中している状況をどう改善するかが重要である。

#### 【八幡会長】

20数年前は、熊大にも県内の様々な地域から学生が入学していた。現在、県内から熊大への入学者は熊本市内からの進学者が多い。熊本市内の高校から熊大に入学してきた者は、中山間地域のことを知らない。特に教育学部では県内各地の地域に教員を育てなければならぬため、それが続いていてよいのかという問題を感じる。

#### 【足立委員】

現場の大変さがよく分かった。「中学生のニーズをふまえた入試」について、可能な限り、ニーズを把握することを検討するべきである。農業、工業、商業と、子供の興味関心は違う。もっと多様な入試があっても良いのではないか。産業界はとんがった人材を求めている。そのような声が入ることが可能かどうか、入試でどこまで許されるのかなども知りたい。

#### 【事務局】

現在のところ中学生のニーズについては把握していない。ニーズを把握する手立ては色々あると考えられるが、本当に中学生のニーズという形で把握できるかどうかという面もある。中学校の時にはそこまで高校生活のイメージができていなかったが、入学後に学ぶ中で成長していく生徒が多くいる。中学生のニーズがどこまでの確に把握できて、どう入試制度に生かせるかは難しい。今後、委員の御意見等も伺いながら、可能な限り様々な方法で検討しながら進めてまいりたい。

#### 【大園委員】

新型コロナウイルス感染症の影響なのか普通科の志望が増え、専門高校の志望が減っているように思う。高校進学後、県外への就職が多い現状が背景にあるのではないか。以前は熊本地震の影響もあった。中学生のニーズはその時の社会の様子によっても変わるのではないか。

#### 【夏木委員】

先生と生徒の縁は卒業後も切れるものではない。2月、3月が多忙になると先生との関わりも減る。前期（特色）選抜、後期（一般）選抜の導入は受検機会の拡大などが期待されたが、データを見ると志願者増にはつながっていない。特色や多様性の評価という点では、日程は同じで、試験内容を分ける入試というものもあるのではないか。

#### 【八幡会長】

時間がきているため、今回の意見交換は閉じさせていただきたいと思う。たくさんの御意見に感謝する。委員の皆様方からの意見を次回までに事務局にまとめていただき、今後

の協議に生かしていただきたい。

**【事務局】**

次回の検討委員会までに事務局で論点整理をする。次回は11月中旬頃を目途に開催を予定している。詳細は書面にて改めて連絡する。

**【事務局】**

これをもって第1回県立高等学校入学者選抜制度検討委員会を閉会する。

以上